



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年11月13日

上場会社名 ロート製薬株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4527 URL https://www.rohto.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 山田 邦雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 斉藤 雅也 (TEL) 06-6758-8223
 四半期報告書提出予定日 2018年11月14日 配当支払開始予定日 2018年12月7日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績 (2018年4月1日～2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	87,259	11.2	10,710	23.7	11,082	26.6	7,317	29.6
2018年3月期第2四半期	78,498	10.1	8,655	33.9	8,754	28.3	5,647	34.8

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 7,101百万円(14.4%) 2018年3月期第2四半期 6,209百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	64.22	63.96
2018年3月期第2四半期	49.58	49.37

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	204,155	134,091	65.1
2018年3月期	198,166	128,440	64.2

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 132,894百万円 2018年3月期 127,124百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年3月期の連結財政状態については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	11.00	—	11.00	22.00
2019年3月期	—	11.00			
2019年3月期(予想)			—	12.00	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	183,300	6.7	21,400	12.1	21,800	15.7	13,300	43.2	116.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2019年3月期2Q	117,980,805株	2018年3月期	117,936,284株
2019年3月期2Q	4,018,884株	2018年3月期	4,018,851株
2019年3月期2Q	113,942,850株	2018年3月期2Q	113,917,155株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(追加情報)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に景気は緩やかな回復基調を続けてまいりました。しかしながら、米国の政策や欧州における政治リスク、アジア諸国の経済動向等、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは顧客志向の新製品開発やマーケティング活動により新規分野への展開を図るとともに、既存分野におきましても消費者ニーズの変化に対応した高付加価値の製品を開発し、市場の活性化に努めてまいりました。

その結果、売上高は872億5千9百万円（前年同期比 11.2%増）となりました。日本においては、高付加価値品が好調なことに加え、日やけ止め「スキンアクアトーンアップUVエッセンス」や色つきリップ「リップザカラー」など新製品が順調に推移いたしました。また、インバウンド需要も堅調でありました。さらに、当社が肝硬変を対象に開発を進めています再生医療等製品候補の開発及び販売に関するライセンス契約を9月に塩野義製薬㈱と締結したことも増収に寄与いたしました。海外においてもアジアでの回復傾向が継続しており、アメリカやヨーロッパも増収に寄与いたしました。

利益面につきましては、売上高が好調に推移したことにより、営業利益は107億1千万円（同 23.7%増）、経常利益は110億8千2百万円（同 26.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は73億1千7百万円（同 29.6%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(日本)

外部顧客への売上高は、566億3千7百万円（前年同期比 9.2%増）となりました。

主力のアイケア関連品は、高機能眼科用薬「Vロートアクティブプレミアム」や「ロート新緑水」などが好調なことに加え、美少女戦士セーラームーンとコラボレーションした「ロートリセ」シリーズも順調に推移いたしました。また、新製品の「1DAYフレッシュビュー」が好調なコンタクトレンズも増収に寄与しております。スキンケア関連品につきましても、オイルティント処方を採用した色つきリップ「リップザカラー」など新製品が順調であったことや、気温が全国的に高かったこともあり日やけ止め「スキンアクアトーンアップUVエッセンス」が好調でありました。さらに、「メラノCC 薬用しみ集中対策美容液」などインバウンド需要の伸びも増収に寄与いたしました。また、内服関連品は、漢方・生薬ブランド「和漢箋」から新発売された皮下脂肪が多く便秘がちな方の肥満症に効く「新・ロート防風通聖錠ZII」や「ロートV5粒」などが順調でありました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、売上が好調に推移したことにより、76億3千3百万円（同 19.0%増）となりました。

(アメリカ)

外部顧客への売上高は、42億2千8百万円（前年同期比 25.6%増）となりました。

米国経済が個人消費の堅調な推移により緩やかな回復基調にあることや「ロートドライエイド」「ロートクールマックス」など目薬が好調に推移したことに加え、前連結会計年度末より新たに連結したブラジルのオフサルモス社も増収に寄与しております。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、売上が好調に推移したことにより、9千8百万円の損失（前年同期のセグメント損失は1億5千6百万円）となりました。

(ヨーロッパ)

外部顧客への売上高は、43億4千7百万円（前年同期比 6.4%増）となりました。

主力の消炎鎮痛剤「ディープヒート」シリーズが堅調に推移しており、ダクス・コスメティクス社も増収に寄与いたしました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、売上が好調に推移したことにより、2億9千2百万円（同 0.2%増）となりました。

(アジア)

外部顧客への売上高は、210億5千8百万円（前年同期比 15.8%増）となりました。

売上につきましては、リップクリームや日やけ止めが好調なことに加え、目薬も堅調に推移しております。国別では、中国の売上が順調なことに加えインドネシアなどASEAN諸国も堅調に推移いたしました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、売上が好調に推移したことに加え広告費及び販売促進費の効率的活用を努めたことにより、25億3百万円（同 33.6%増）となりました。

(その他)

報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外部顧客への売上高は、9億8千7百万円（前年同期比 3.5%減）となりました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、7千7百万円（同 6.7%減）となりました。

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産総額は2,041億5千5百万円となり、前連結会計年度末より59億8千8百万円増加いたしました。これは、商品及び製品が42億6千8百万円、投資有価証券が22億8千3百万円、原材料及び貯蔵品が12億4千4百万円、仕掛品が4億9千7百万円それぞれ増加した一方、受取手形及び売掛金が42億8千3百万円減少したこと等によるものであります。

負債総額は700億6千3百万円となり、前連結会計年度末より3億3千7百万円増加いたしました。これは、支払手形及び買掛金が11億8千8百万円、短期借入金が6億5千1百万円、電子記録債務が6億4千4百万円それぞれ増加した一方、未払費用が21億6千7百万円減少したこと等によるものであります。

また、純資産につきましては1,340億9千1百万円となり、前連結会計年度末より56億5千万円増加いたしました。これは、利益剰余金が60億6千4百万円、その他有価証券評価差額金が5億5千6百万円それぞれ増加した一方、為替換算調整勘定が7億6千4百万円減少したこと等によるものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度末との比較を行っております。

②連結キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1億3千8百万円増加し、302億2百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、前年同期に比べ23億7千6百万円増加し82億2千2百万円となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が105億6千9百万円あり、キャッシュ・フローの増加要因である売上債権の減少額が39億2千9百万円、減価償却費が28億7千6百万円、仕入債務の増加額が22億2千5百万円あった一方、キャッシュ・フローの減少要因である棚卸資産の増加額が62億5千万円、法人税等の支払額が34億2千万円、未払費用の減少額が26億7千4百万円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ16億7千4百万円増加し68億4千7百万円となりました。これは、有形固定資産の取得による支出が45億9千7万円、投資有価証券の取得による支出が16億6千8百万円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ6億7百万円増加し9億1千万円となりました。これは、配当金の支払額が12億5千3百万円、長期借入金の返済による支出が4億7千万円あった一方、短期借入金の純増加額が9億5千1百万円あったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

[2019年3月期 通期の連結業績予想]

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	176,000	19,500	19,600	11,900	104.42
今回修正予想(B)	183,300	21,400	21,800	13,300	116.71
増減額(B-A)	7,300	1,900	2,200	1,400	—
増減率(%)	4.1	9.7	11.2	11.8	—

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上が好調に推移したことにより、大幅な増益となりました。しかしながら、現在の経済状況は、景気が総じて良かったものの、通商問題の動向など不確定要因も多く、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループはさまざまな事業環境の変化に対応し、さらなる事業の拡大と業績向上に向けて、お客様ニーズの変化に的確に対応した新製品、新ブランドを創出するとともに、幅広い企業との連携を図るなど様々な改革に挑戦してまいります。

通期の業績につきましては、当第2四半期連結累計期間の実績を踏まえ、2018年5月11日に公表した業績予想の売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益を上方修正いたします。

なお、通期の連結業績予想に用いた為替レートは〔110円＝1USドル〕と前回公表時〔105円＝1USドル〕から変更しております。

※上記の予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,532	30,799
受取手形及び売掛金	37,042	32,759
電子記録債権	13,305	13,333
商品及び製品	14,918	19,186
仕掛品	2,620	3,118
原材料及び貯蔵品	8,690	9,934
その他	3,322	4,050
貸倒引当金	△383	△521
流動資産合計	110,050	112,661
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	20,547	20,369
その他（純額）	26,645	28,235
有形固定資産合計	47,193	48,604
無形固定資産		
のれん	1,503	1,210
その他	2,604	2,437
無形固定資産合計	4,108	3,647
投資その他の資産		
投資有価証券	32,328	34,611
その他	7,049	7,433
貸倒引当金	△2,562	△2,804
投資その他の資産合計	36,815	39,241
固定資産合計	88,116	91,493
資産合計	198,166	204,155
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,098	13,287
電子記録債務	2,974	3,619
短期借入金	4,151	4,803
未払費用	24,599	22,431
未払法人税等	3,827	3,677
賞与引当金	2,285	2,430
役員賞与引当金	30	20
返品調整引当金	696	735
売上割戻引当金	2,742	2,313
その他	7,926	8,143
流動負債合計	61,332	61,463

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
固定負債		
長期借入金	1,702	1,570
退職給付に係る負債	3,968	3,776
債務保証損失引当金	1,491	1,709
その他	1,231	1,543
固定負債合計	8,393	8,599
負債合計	69,725	70,063
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,415	6,441
資本剰余金	5,737	5,586
利益剰余金	112,696	118,761
自己株式	△4,935	△4,935
株主資本合計	119,915	125,853
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,220	8,777
為替換算調整勘定	463	△300
退職給付に係る調整累計額	△1,474	△1,435
その他の包括利益累計額合計	7,209	7,040
新株予約権	560	508
非支配株主持分	755	688
純資産合計	128,440	134,091
負債純資産合計	198,166	204,155

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	78,498	87,259
売上原価	33,202	35,283
売上総利益	45,295	51,976
返品調整引当金繰入額	60	39
差引売上総利益	45,235	51,937
販売費及び一般管理費	36,580	41,226
営業利益	8,655	10,710
営業外収益		
受取利息	115	176
受取配当金	180	215
持分法による投資利益	—	19
その他	233	170
営業外収益合計	529	582
営業外費用		
支払利息	69	68
持分法による投資損失	286	—
固定資産売却損	0	49
その他	73	92
営業外費用合計	429	210
経常利益	8,754	11,082
特別損失		
投資有価証券評価損	2	121
関係会社株式評価損	0	—
貸倒引当金繰入額	170	170
関係会社貸倒引当金繰入額	3	3
債務保証損失引当金繰入額	295	218
特別損失合計	470	512
税金等調整前四半期純利益	8,284	10,569
法人税等	2,633	3,233
四半期純利益	5,650	7,335
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	18
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,647	7,317

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	5,650	7,335
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	634	559
為替換算調整勘定	△98	△733
退職給付に係る調整額	55	38
持分法適用会社に対する持分相当額	△33	△99
その他の包括利益合計	559	△234
四半期包括利益	6,209	7,101
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,216	7,148
非支配株主に係る四半期包括利益	△7	△46

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,284	10,569
減価償却費	2,646	2,876
のれん償却額	104	127
貸倒引当金の増減額(△は減少)	91	186
賞与引当金の増減額(△は減少)	146	147
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△320	△185
返品調整引当金の増減額(△は減少)	60	39
売上割戻引当金の増減額(△は減少)	△100	△429
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	295	218
貸倒引当金繰入額	170	170
関係会社貸倒引当金繰入額	3	3
投資有価証券評価損益(△は益)	2	121
関係会社株式評価損	0	—
受取利息及び受取配当金	△296	△392
支払利息	69	68
持分法による投資損益(△は益)	286	△19
売上債権の増減額(△は増加)	88	3,929
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,432	△6,250
仕入債務の増減額(△は減少)	2,500	2,225
未払費用の増減額(△は減少)	△3,208	△2,674
その他	△241	531
小計	8,151	11,262
利息及び配当金の受取額	312	407
利息の支払額	△42	△35
法人税等の支払額	△2,596	△3,420
法人税等の還付額	22	8
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,846	8,222
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△493	△548
定期預金の払戻による収入	450	399
有形固定資産の取得による支出	△2,604	△4,597
無形固定資産の取得による支出	△139	△167
投資有価証券の取得による支出	△2,071	△1,668
投資有価証券の売却及び償還による収入	7	—
短期貸付金の純増減額(△は増加)	30	△42
長期貸付けによる支出	△351	△278
その他	△0	54
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,172	△6,847

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	592	951
長期借入れによる収入	540	85
長期借入金の返済による支出	△165	△470
配当金の支払額	△1,253	△1,253
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得 による支出	—	△202
その他	△16	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	△302	△910
現金及び現金同等物に係る換算差額	△125	△325
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	244	138
現金及び現金同等物の期首残高	23,466	30,063
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	103	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,814	30,202

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント (注) 1					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
(1) 外部顧客への 売上高	51,843	3,367	4,085	18,178	77,474	1,023	78,498	—	78,498
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,252	585	9	1,314	3,162	44	3,207	△3,207	—
計	53,096	3,952	4,095	19,493	80,637	1,068	81,705	△3,207	78,498
セグメント利益 又は損失(△)	6,413	△156	291	1,874	8,423	83	8,507	148	8,655

- (注) 1 「アメリカ」の区分は米国、カナダ等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、ポーランド、南アフリカの現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、台湾、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。
- 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。
- 3 セグメント利益又は損失(△)の調整額148百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。
- 4 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント (注) 1					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
(1) 外部顧客への 売上高	56,637	4,228	4,347	21,058	86,271	987	87,259	—	87,259
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,753	583	17	1,565	3,920	36	3,956	△3,956	—
計	58,390	4,812	4,365	22,623	90,192	1,024	91,216	△3,956	87,259
セグメント利益 又は損失(△)	7,633	△98	292	2,503	10,331	77	10,409	301	10,710

- (注) 1 「アメリカ」の区分は米国、ブラジル等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、ポーランド、南アフリカの現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、台湾、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。
- 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。
- 3 セグメント利益又は損失(△)の調整額301百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。
- 4 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。